

引 く 楽 し さ を 身 に 付 け る

「漢字辞典の使い方」(4・6年)

主張点

1 本単元で育成する国語力をこうとらえる

- ・ 漢字辞典を活用し、漢字の読み、意味、構成、使われ方などを深く理解することで言語知識を高めることができる。
- ・ 漢字辞典の活用方法を学ぶとともに、漢字辞典の有効性をとらえることができる。
- ・ 「漢字についてもっと知りたい」「漢字辞典を活用しよう」とする意欲から、言語についての興味・関心を高めることができる。

2 学習指導

① 育てたい力

ア 漢字辞典の活用方法を知る

4年生では部首索引から、6年生では部首索引、音訓索引、総画索引のいずれかの索引を利用して、調べようとする漢字についての知識を得ることができるようにする。漢字辞典の特色や活用方法を理解し、実際に活用できる力を育てたい。

イ 漢字調べを通して言語感覚・言語知識を育てる

児童はこれまで漢字の読み方、書き方を中心に学習してきた。漢字辞典には読み方や書き方だけでなく、その漢字のもつ意味、構成、熟語など、さまざまな情報が載っている。これまで読み方や書き方を覚えるのみだった漢字について、このような幅広い知識を得るということは、漢字についての興味・関心を高めることになるとともに、一つの言語について深く考えようとする態度につながると考える。漢字辞典を活用した学習により児童の言語感覚を高め、言語知識を深めたい。

② 教材化の工夫

ア 系統的な指導

3年生で児童は、漢字の構成(部首とつくり)を学習する。それを受けて、4年生では部首索引を利用して漢字辞典を引く方法を、5年生では漢字の成り立ちや熟語の構成について学習する。6年生では、部首索引だけでは探しにくい漢字調べから、音訓索引や総画索引の必要性に気付かせ、3つの索引を適宜使って引くことを学習する。このように、3年生から6年生までの漢字の学習単元を系統的にとらえた上で指導することによって、言語知識のより確実な定着を図ることができると思う。

イ 漢字ゲームの活用により楽しく漢字辞典に親しむ

4年生では、漢字ビンゴゲームを行う。ゲームの中で漢字辞典を使うことにより、同じ部首をもつ漢字をより多くとらえることができる。6年生では、部首索引で調べにくい漢字から、部首索引以外の索引や、漢字についての新たな知識が得られるようにする。ゲームの中で漢字辞典を活用する場を設けることで、児童の「調べたい、知りたい」という意欲を高め、楽しみながら漢字辞典に親しむ環境をつくる。このような学習を通して、漢字辞典に対する関心が高まり、日常的に活用しようとする態度が児童に育つと考える。

③ 実際の学習指導

まず、4年生では、同じ部首の漢字を集める漢字ビンゴゲームを行う。その際に漢字辞典を活用し、同じ部首をもつ漢字について確認しながらゲームを進める。出てきた漢字をみんなで発表し合い、ビンゴ表の漢字に○をつけていくことで、楽しい雰囲気の中で部首ごとに漢字を整理する。その中で、画数の少ない部首から順に載っていることや、読み方、総画数、筆順、成り立ち、意味などが載っていることなど、漢字辞典の特性がつかめるようにする。

次に、6年生では、部首索引だけでは調べにくい漢字があることを知り、そこから、音訓索引や総画索引の必要性に気づかせる。その中で、「夜」の字のように間違いやすい部首があることや、調べようとする漢字によって適切な索引を使うことの大切さをとらえられるようにする。

3 評価のポイント

次の点を評価のポイントとする。

<4年生>

- ・ 部首索引を使って、漢字の部首を調べ、理解することができる。
- ・ 画数の少ない部首の漢字から順に並んでいることが理解できる。
- ・ 漢字辞典には、読み方、総画数、筆順、成り立ち、意味、熟語など漢字についてのさまざまな情報が載っているなど、漢字辞典の特徴を理解することができる。

<6年生>

- ・ 漢字辞典には、部首索引だけでなく、音訓索引や総画索引があることを知り、調べようとする漢字によってそれらの索引を適切に使い分け、調べることができる。
- ・ 「行」や「夜」など、部首によっては、間違いやすい部首があることを知り、正しい部首をとらえようとすることができるとともに、予想された間違いであれば、正しい部首を示してくれる特徴も漢字辞典にはあることを知る。

以上の点について、漢字調べ活動を行う児童の姿を的確に評価していく。また、漢字や漢字辞典への興味・関心についても、ワークシートや行動観察などにより評価していきたい。

平成19年度香小研国語部会夏季研修会 研修Ⅱ分科会Ⅲ資料
4年「漢字辞典の使い方を知ろう」

本単元の留意点

ゲーム的な活動を通して漢字や部首に対する興味を高め、楽しみながら漢字辞典を使う。

↓
〈導入の「部首ビンゴ」では〉
既習漢字の多い部首、部首を見誤りにくい部首から出題する。

例：「きへん」「さんずい」等。
カードに当てはめる漢字が見つからない児童には、教科書の漢字表や友達との交流等で支援する。



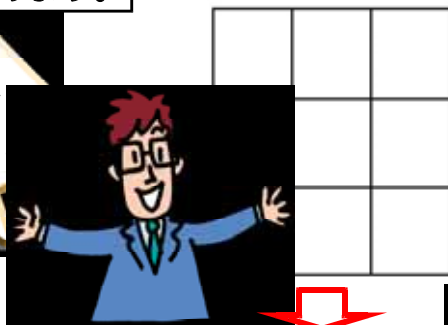
児童に付けたい力

国語辞典に比べて積極的に使われることの少ない漢字辞典だが、多くの情報が掲載されていることを知り、進んで情報を収集し活用する力を付けたい。

また、ゲーム的な活動の延長線上に漢字辞典を使う活動を設定することで、漢字の読み書きが苦手な児童にも漢字学習を楽しむ姿を期待する。

仲間になる漢字を集めよう。

「さんずい」が付く漢字をカードに書いてビンゴゲームをしよう



さんずいが付く漢字って何があったかな？

「注」「波」「油」「湯」「湖」などもさんずいだよ。

やったあ！
ダブルリーチだ。
漢字なのにおもしろい。

池	温	海
泳	活	決
汽	流	消

漢字辞典には、全部の漢字がのっているんだって。

漢字辞典を使って分かったよ。

- 部首さくいんがある。
- 部首の画数の少ないものから順に並んでいる。
- 漢字の読み方、総画数、筆順、成り立ち、意味などが載っている。
- 漢字一文字のことだけでなく、その漢字がふくまれている言葉の読み方や意味も載っている。 等

漢字辞典を引くと、漢字の秘密がたくさん分かったよ。もっといろんな漢字を調べたいな。

最初に「部首さくいん」があって、部首ごとに画数の少ないものから順に並んでいて、調べやすいね。

6年「漢字辞典を利用しよう」

本単元の留意点

既習の部首さくいん以外の音訓さくいん、総画さくいんを使うよさや便利さを体感する。

↓
〈辞書で調べる熟語を選ぶには〉
初めの漢字は、部首が分かりにくい、音読みか訓読みかを知っていたり総画数が数えやすかったりする熟語を選ぶ。

例：世、夜、疑、失、着…等。
読みや意味が分かりにくい、辞典に載っている熟語を選ぶ。



児童に付けたい力

漢字辞典の3つのさくいんを知ることによって、調べようとする漢字によって使うさくいんを適切に選び、日常的に漢字辞典を活用する力を付けたい。

また、5年生で学習した漢字の成り立ちや熟語の構成について掲載されている漢字辞典を「情報の宝庫」として日常的に学習に役立てる姿を期待する。

4年生での漢字辞典の学習を思い出してみると…

今から黒板に書く言葉の読み方や意味を調べてみましょう。

部首が分かっていたら、部首さくいんを使って探すことができたね。

部首が分からないときに、他に探す方法がないのかなあ。

わたしは「よる」という読み方を手がかりにして音訓さくいんを使ってみたわ。

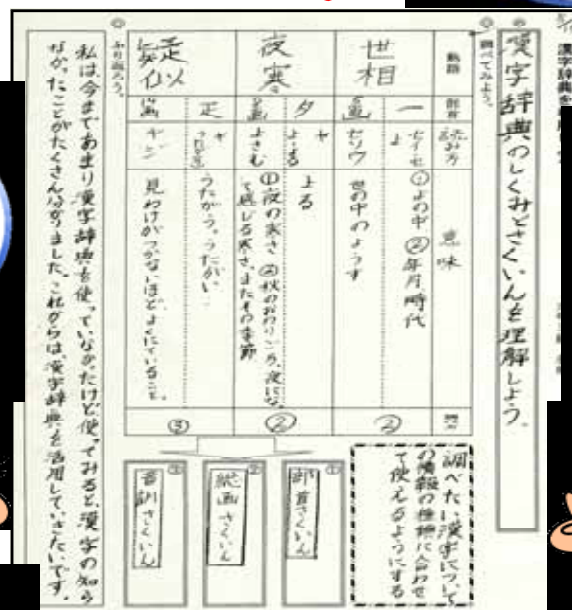
「夜」の部首は「なべぶた」だと思って調べたのに、「夕」の部を見るように書いてあったよ。

読み方が分かっていたら音訓さくいん、画数が分かれば総画さくいんを使えばいいんだね。

漢字辞典を使って分かったよ。
○ 部首さくいんだけでなく、音訓さくいんや総画さくいんを使って引くことができる。

部首を間違えても、予想される間違いならば正しい部首やページ数を案内してくれている。知らない部首も多くある。等

部首を間違えていても正しいページを案内してくれているなんて、4年生のときには気付かなかったよ。



漢字辞典の使い方を知ろう 四年 名前

◎ 部首ペンゴをしよう。

学習をふり返ろう。

--



漢字辞典の使い方を知ろう 四年 名前

◎ 部首ペンゴをしよう。

学習をふり返ろう。

--



池

温

海

泳

活

決

汽

流

消

六年三組 名前

◎ 調べてみよう。

◎
ふり返ろう。

			熟語
			部首
			調へ方

①

②

③